



オーダーメイドの専用ファッションで 障がい者の社会参加を応援

【プロフィール】

福岡県出身。香蘭ファッションデザイン専門学校を卒業後、教職へ。その後ウエディング業界でドレスデザイナーとして活躍し、2011年にオーダーメイド専門店アトリエエスプリローブを開業する。

アトリエエスプリローブ 代表 鈴木 綾氏

ファッションで 街に出る楽しみを

福岡市中央区薬院で、衣服のオーダーメイド専門店アトリエエスプリローブを営む鈴木綾さん。鈴木さんが力を注いでいるのが、身体障がい者一人ひとりの状態に合わせた服づくりです。本来、TPOやそれぞれの好みに合わせて自由に楽しむことができるファッションですが、身体障がい者は抱えているハンディキャップによって、既製品のサイズや形状に悩みを持っているといいます。

そこに課題感を覚えた鈴木さんは「障がいを持っている方や、車椅子に座りっぱなしの高齢者の方の中には、自分が満足できる服に出会えずに、外

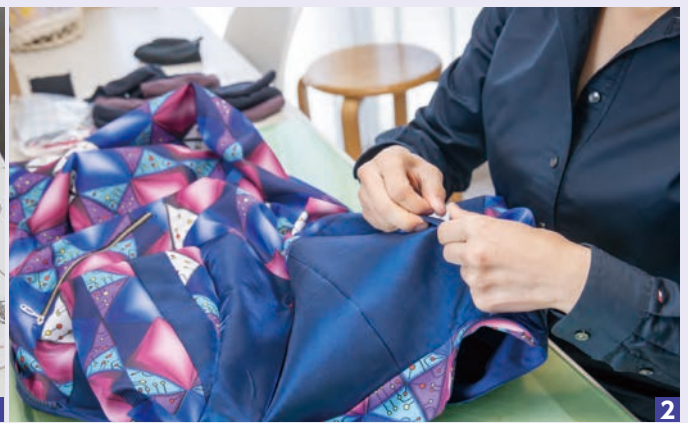
出することをためらい社会参加できない方がいるということを知りました。それまでずっとトレンドを追いつ求めた服づくりに携わっていたのですが、高校生のころから衣服に関わってきた自分にもできることがある。そう考えて挑戦したのが、障がい者のためのファッションです」と振り返ります。

一般的な既製品は立位を主体にデザインされているため、例えばズボンでは長時間座位で過ごす場合に腰の部分がめくれて背中が露出してしまうなど、生活上でさまざまな不便さを生じさせます。そのため鈴木さんが心がけているのは、着脱しやすく着崩れしないオシャレな服づくり。フルオーダーはもちろん、既製品のリメイクにも対応しています。

「障がいを持った方向けの既製品もたくさん販売されていますが、機能的な面に目を向けすぎているためかデザイン性は二の次になってしまい『着たくない』という方も多くいらっしゃいます。だからこそ服をつくる際にはしっかりとお客様と話をし、身体の状態や生活スタイルなどを伺いながらデザインを進めていきます。仮縫いしたものをチェックしてもらいながら縫製を進め、納品後にも要望があれば1年間は無料でお直しにも対応。一般的な服づくりより手間はかかっていますが、難しいからこそ楽しい。つくった服を着てもらうことが皆さんの社会参加のきっかけにつながると思うと励みになります」と鈴木さん。



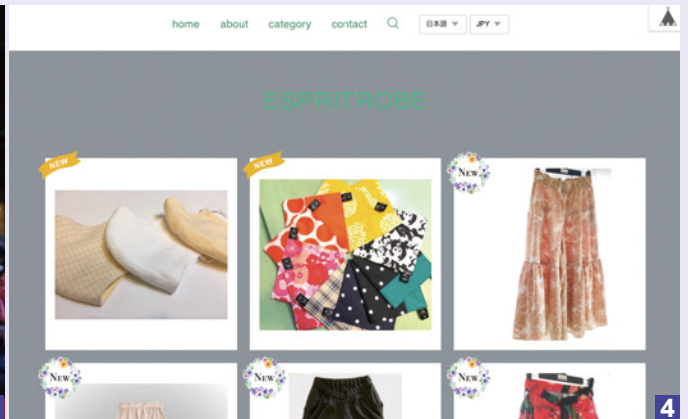
1



2



3



4

1 1点1点お客様の要望を聞きながらデザイン画を描き上げる鈴木さん。衣類だけではなく車椅子用のレインコートなどのファッションアイテムにも対応

3 ファッションイベントのために様々なドレスを制作している鈴木さん。立位だけでなく座位に対応したドレスも提案

2 お客様にぴったりの服をつくるため、オーダーの場合には1着が完成するまでに1ヶ月半ほどの制作期間が必要。丁寧な縫製も鈴木さんの特徴

4 アトリエエスプリローブはオンラインショップも開設。レインコートはもちろんスカートや靴などさまざまな商品を販売している

ボランティア体験などを 生かし活躍の場を広げる

もともとブライダル業界でウエディングプランナー兼ドレスデザイナーとして活躍していた鈴木さん。障がい者ファッションという道に飛び込んだ当時、顧客はゼロの状態だったそう。

「開業当初はウエディングドレスづくりを続けながら、ブログで情報発信をしていました。そこで障がい者の方たちとつながり、初めてお仕事をいただきました。それまでは車椅子を購入して研究し試作品をつくっていましたが、失敗もたくさん。ズボンが一番困っているアイテムだと思ってユニバーサルデザインのものを量産したものの、支持を得られず。誰にでも着られるものは逆に誰も着ないということを学びました。やはり皆さん自分にぴったりのものを着たいんです」。

その後、鈴木さんはボランティアとして福祉施設などを訪問し、直接障がい者の方や高齢者の方と接する中でオーダーメイドによる衣服の商品化を確立。現在では東京や大阪での展示会をはじめ、車椅子ファッション

ショー、お買い物ツアーなどのイベントを開催。また介護現場で働きながら、医療福祉系の専門学校で非常勤講師として生活支援や被服に関する講義を受け持つなど、幅広い活躍を見せています。

当事者デザイナーが紡ぐ 障がい者のための服を

「東京や大阪と比べると、福岡の障がい者ファッションへの認知度は低い印象。まずは着たい服を着ることができれば、もっと生活が楽しくなるということを伝えたい。そのためには福岡のすみずみまで福祉施設を訪問し、認知度を高めていきたいと思います」と意気込む鈴木さん。さらには現状の課題である納期の長期化や高コストを、ファッションとテクノロジーを連携させたファッションテックによって解決したいと目論んでいます。

「例えば採寸がデジタル化できれば、使っている車椅子も含めた採寸が可能になるなど、大幅に作業を効率化できます。制作時間が短縮できればそれだけコストを削減することにもつながる」。

一方、デザイナーの育成にも注力したいという鈴木さんは、NPO法人を設立し「障がい当事者デザイナー」を増やす取り組みも模索しているそう。

「服に困っている人たちが自分の手で解決できるようになれば、もっとファッションを楽しめる人が増えるはず。ファッションデザインを仕事にできれば、社会参加のハードルはさらに低くなる。そのために当事者デザイナーが活躍できる場もつくりたい」と鈴木さん。

アトリエエスプリローブは、フランス語のesprit(魂・精神)とrobe(衣服)を組み合わせた造語。鈴木さんの「思いを込めた服づくり」が、人と社会を結ぶ架け橋を目指して成長を続けています。

取材日：4月7日

EspritRobe
ATELIER

アトリエエスプリローブ

〒810-0022 福岡市中央区薬院2-16-1-801

TEL 080-1724-3212

<https://espritrobe.com/>